

[研究ノート]

信仰が社会・政治関係に及ぼす影響に関する 基礎的研究（中間報告）

アメリカ合衆国カリフォルニア州モデスト市の場合
Foundational Research of
How Faith Influences Social and Political Relations
—The Case of Modesto, California, U.S.A.—
(Intermediary Report)

堀内 一史
Kazunobu Horiuchi

はじめに

- I. 調査の概要
 - II. 調査項目と定義
 - (1) 福音派
 - (2) 原理主義
 - (3) 政治的イデオロギー
 - (4) 政党支持
 - (5) ソーシャル・キャピタル
 - III. データの分析と考察
- むすびにかえて

キーワード：福音派、主流派、政治的イデオロギー、政党支持、ソーシャル・キャピタル

学際領域：宗教学、社会学、政治学、アメリカ研究

はじめに

アメリカ人の78.4%はキリスト教を信仰している。そのうちの51.3%はプロテスタントであるが、その内訳は、主流派教会に属する信徒が18.1%、福音派教会に属する信徒が26.3%、黒人教会の信徒が6.9%である。¹⁾

主流派教会の信徒は、共同体主義的な立場から「静かに」地域社会における貧困問題への救済活動などに関わってきた。また、幅広い連携を通してさまざまな活動を展開することでも知られている。主流派教会に属する信徒の多くは政治的にはリベラルであり、近年浮動票化しつつあり、共和党よりも民主党を支持する傾向がある。²⁾

1) U.S. Religious Landscape Survey: Religious Affiliation: Diverse and Dynamic, February, 2008. The Pew Forum on Religion & Public Life, p. 10.

一方、福音派教会の信徒は、1970年代以降福音派の下位集団である一部の原理主義者が中心となって宗教右派と呼ばれる社会政治運動を展開し、アメリカの政治に大きな影響力を持つようになった。彼らは政治的には保守派であり、特に、1980年以降、共和党の強固な支持母体となった。³⁾ 原理主義者は特に、社会的には閉じた関係を維持し、異なる信仰を持つ市民とは連携をとらない傾向がある。⁴⁾ しかしながら近年、福音派のなかにも政治的には穏健もしくはリベラルなイデオロギーに共感し、民主党を支持する信徒の存在が指摘されるようになった。⁵⁾

このように、信仰と政治的イデオロギー、信仰と政党支持との間にはある程度の親和性の存在が認められている。さらに、ソーシャル・キャピタルにおいては、保守的な福音派、特に原理主義者の高度の「結束型」が、主流派では高度の「橋渡型」が特徴として報告されている。⁶⁾

本研究は、アメリカにおけるプロテスタントの宗教的・政治的状況を、フィールド・ワークによる実証的なデータで検証し、①信仰と政治的イデオロギー、②信仰と政党支持、③信仰とソーシャル・キャピタルの間に見られる諸関係に関する基礎的データを収集し、分析することを目的としている。本稿はあくまでも中間報告であることをあらかじめ明記しておきたい。

I. 調査の概要

本研究の調査およびデータの収集はカリフォルニア州モデスト市で行った。モデスト市は州都サクラメントの南109キロの距離に位置する人口およそ21万人の都市である。モデスト市はスタウニスラス郡の郡庁所在地でもある。主な産業は農業であるが、世界でも最大規模を誇るガロ・ワイナリーがこの地に本社を置くことで

2) Robert Wuthnow and John H. Evans eds., *The Quiet Hand of God: Faith-Based Activism and the Public Role of Mainline Protestantism*. Berkeley and Los Angeles: University of California Press, 2002. Robert Booth Fowler, Allen D. Hertzke, Laura R. Olson, and Kevin R. Den Dulk, *Religion and Politics in America: Faith, Culture, and Strategic Choices*. Fourth Edition, Boulder, CO: Westview Press, 2010, pp. 99-100.

3) たとえば、Clyde Wilcox and Carin Larson, *Onward Christian Soldiers? The Religious Right in American Politics*. Third Edition. 2006. Boulder, CO: Westview Press; John C. Green, Lyman A. Kellstedt, Corwin E. Smidt, and James L. Guth, "How the Faithful Voted: Religious Communities and the Presidential Vote," pp. 15-36 in David E. Campbell ed. *A Matter of Faith: Religion in the 2004 Presidential Election*. Washington, D.C.: Brookings Institution, 2007; Robert Booth Fowler, Allen D. Hertzke, Laura R. Olson, and Kevin R. Den Dulk, *Religion and Politics in America: Faith, Culture, and Strategic Choices*. Fourth Edition. Boulder, CO: Westview Press, 2010.

4) Ammerman, Nancy T., "North American Protestant Fundamentalism," in Martin E. Marty and R. Scott Appleby eds. *Fundamentalisms Observed*. Chicago: University of Chicago Press, 1991; Eric M. Uslaner, "How trust and religion shape civic participation," in Paul Dekker and Eric M. Uslaner, eds. *Social Capital and Participation in Everyday Life*. New York: Routledge, 2001.

5) Amy Sullivan, *The Party Faithful: How and Why Democrats Are Closing the God Gap*. New York: Scribner, 2008; Lyman A. Kellstedt, Corwin E. Smidt, John C. Green, and James L. Guth, "A Gentle Stream or a 'River Glorious?': The Religious Left in the 2004 Election," pp. 232-256 in David E. Campbell ed. *A Matter of Faith: Religion in the 2004 Presidential Election*. Washington, D.C.: Brookings Institution, 2007.

6) Corwin E. Smidt, ed. *Religion as Social Capital: Producing the Common Good*. Waco, TX: Baylor University Press, 2003; 拙稿「第4章 ソーシャル・キャピタルとボランティア—宗教ボランティアと宗教的ソーシャル・キャピタルをめぐって」105-133頁、稲葉陽二編『ソーシャル・キャピタルの潜在力』日本評論社、2008.

も知られる。

2000年の国勢調査⁷⁾によると、モデスト市の人種構成は、白人 69.58%、アフリカ系アメリカ人 3.97%、先住アメリカ人 1.24%、アジア系アメリカ人 6.03%、太平洋諸島系アメリカ人 0.50%、ヒスパニック系アメリカ人 25.58%となっている。世帯当たりの年間所得は、51,496ドル (全国平均：52,175ドル) であり、人口 21万人に占める高卒者の割合は 78.4% (全国平均：84.5%) で、大卒者は 18.5% (全国平均：27.4%) である。モデスト市は、7割を占める白人について人口のおよそ 4分の1をヒスパニックが占め、年間所得および学歴ともに全国レベルをやや下回っていることが分かる。

調査の実施形態であるが、41項目からなるアンケート用紙を作成し、2008年9月に6つの教会に合計180部を配布して、アンケート調査を実施した。アンケート用紙を回収したのは、2008年11月であり、回収できたのはモデスト市内の4つのプロテスタント教会からの39部であった。本研究では、この4つの教会はそれぞれ、教会A、教会B、教会C、教会Dと呼ぶことにする。サンプル数は39であり、回収率は21.7%である。回収した教会ごとのサンプル数は、教会A=12、教会B=13、教会C=13、教会D=1である。

サンプルの平均年齢は、61歳であり、男性が13人、女性が25人である。教会Aは、男性5人、女性7人で、平均年齢は73歳である。教会Bは、男性3人、女性10人であり、平均年齢は65歳である。教会Cは、男性5人、女性8人、平均年齢は46歳である。教会Dは、男性1人で年齢は44歳である。

信仰形態に関しては、教会Aは敬虔派・再洗礼派の影響下に成長した教会である。教会Bは主流派に属するメソジスト派の教会である。教会Cは神学的には保守的なバプテスト派に属する教会である。教会Dはペンテコステ派教会の教派アセンブリーズ・オブ・ゴッドに属しており、教会員の大半は保守的な福音派や原理主義者であるとされる。しかしながら、教会Dからのサンプル数は1にすぎなかった。教会の選定は福音派、主流派など一方に偏らないよう配慮したが、神学的に保守的な教会Dの回収率の低さにより、データの偏りが結果的に生じた。

II. 調査項目と定義

(1) 福音派

福音派はさまざまな定義が存在する。ここでは2つの定義を紹介し、本研究で使用する定義を示したい。

デヴィッド・ベビントンは、①人生を改変するような神の体験、つまり回心体験 (ボーン・アゲイン体験)、②聖書を宗教的に究極的な拠り所とみなす聖書主義、③信仰を他者と共有する行動主義、④十字架上のキリストの死による代理贖罪を、福音派の信仰の特徴としている。⁸⁾ 多くの研究者がベビントンの定義を用いている。

7) “Modesto City, California,” *U.S. Census Bureau-American FactFinder*. <http://factfinder.census.gov/servlet/ACSSAFFacts?_event=Search&geo_id=&_geoC>

一方、ギャラップ調査⁹⁾では、1991年以來一貫して調査を行い時系列でデータを蓄積しているため、本研究にとっても有用性は高い。ギャラップ調査は、①ボーン・アゲインの回心体験、②イエス・キリストへの帰依を他者に奨励する福音の拡大、③聖書は神の言葉だと信じる聖書の「無謬性」、という3つの項目を福音派の定義として調査に使用してきた。この定義によれば、22%のアメリカ人の信仰形態がこの3つの項目に当てはまり、福音派ということになる。このほかにギャラップ調査が採用してきた福音派の定義は、「ボーン・アゲイン」体験を持つか、あるいは、「福音派」であるかどうかを直接的に尋ねる方法である。この方法によると、1991年以來アメリカ人の35%から47%が福音派ということになる。なお、ギャラップ調査では、カトリック教徒とアフリカ系アメリカ人は福音派の範疇から除外されている。前者は歴史的な伝統や信仰の形態が異なることから、後者は9割が民主党候補に投票するという傾向があるからである。したがって、回心体験を有するプロテスタントの白人アメリカ人の26%~28%が福音派ということになる。

本研究では、ベビントンとギャラップ調査の定義で共通する部分として①ボーン・アゲイン体験、②福音の拡大、③聖書主義とその無謬性を採用し、その3つの項目にベビントンの④キリストの代理贖罪を加えた。さらには、直接的に⑤「福音派」の自己認識があるかどうかを問う項目を追加している。これら5つの項目から次の5つの質問を設定した。

質問

- Q9 「あなたは自分を福音派と呼びますか？ その場合、そうでない場合、なぜですか？」
- Q10 「聖書は神の言葉であり、したがって、その中に誤りがないことを信じますか？」
- Q11 「回心体験、または『ボーン・アゲイン』体験をしたことがありますか？」
- Q12 「キリストはあなた自身の個人的な救い主だということを信じますか？」
- Q13 「福音のメッセージを、キリスト教を信じない人々に自ら進んで伝えたいですか？」

(2) 原理主義

ジョージ・マースデン¹⁰⁾やナンシー・アマーマン¹¹⁾によれば、原理主義者は一般に福音派の4項目の信仰（①ボーン・アゲイン体験、②福音の拡大、③聖書主

8) David Bebbington, *Evangelicalism in Britain: a History from the 1730s to the 1980s*. London: Unwin Human. 1989. pp. 2-17.

9) Frank Newport, "Who are the Evangelicals?" *The Gallup Poll*, June 24, 2005. <<http://www.gallup.com/poll/17041/Who-Evangelicals.aspx?version=print>> 2010/03/30.; Frank Newport and Joseph Carroll, "Another Look at Evangelicals in America Today," *The Gallup Poll*, December 2, 2005. <http://www.galluppoll.com/content/asp?ci=Default.20242&pg=1&t=ziel7C2b-R13> 2007/07/10.

10) George M. Marsden, *Fundamentalism and American Culture*. New Edition, New York: Oxford University Press, 2006.

11) Nancy T. Ammerman, "North American Protestant Fundamentalism," pp. 1-65 in Martin E. Marty and R. Scott Appleby eds. *Fundamentalisms Observed*. Chicago: University of Chicago Press, 1991.

義とその無謬性、④キリストの代理贖罪）を共有し、これらに加えて、⑤ディスペンセーションナル・プレミレニアリズムを信じ、⑥世俗との分離主義を貫く。本研究では、原理主義者に関する被験者のイメージを理解するために敢えて神学論には触れず、原理主義者としての自覚があるかどうか、さらには原理主義者の定義を被験者に尋ねた。加えて、子供の教育で、公教育、私立学校での教育、在宅教育（ホーム・スクーリング）のいずれを採用しているかを尋ねた。世俗的な教育を避けるために在宅教育を採用しているかどうかを調べるためである。以上のことから、次のような質問を設定した。

質問

- Q14 「あなたは自分を原理主義者と呼びますか？ その場合、そうでない場合、それはなぜですか？」
- Q15 「原理主義者とはどのような人ですか？」
- Q26 「あなたはあなたの子供を公立学校に通わせていますか？」
- Q27 「もし“no”なら、あなたの子供をどのように教育していますか？ またそれはなぜですか？」「宗教とはかかわりのない私立学校」「キリスト教の学校」「在宅教育」

(3) 政治的イデオロギー

先述のように、神学的な保守派は政治的に保守的なイデオロギーを選好し、神学的なりベラル派はリベラルな政治的イデオロギーを選好する傾向がある。このことから、次のような質問を設定した。

質問

- Q35 「あなたは政治的に保守派ですか、リベラル派ですか？」

(4) 政党支持

政党支持については、被験者が直接、次のように具体的な支持政党名を選択できるようにした。

質問

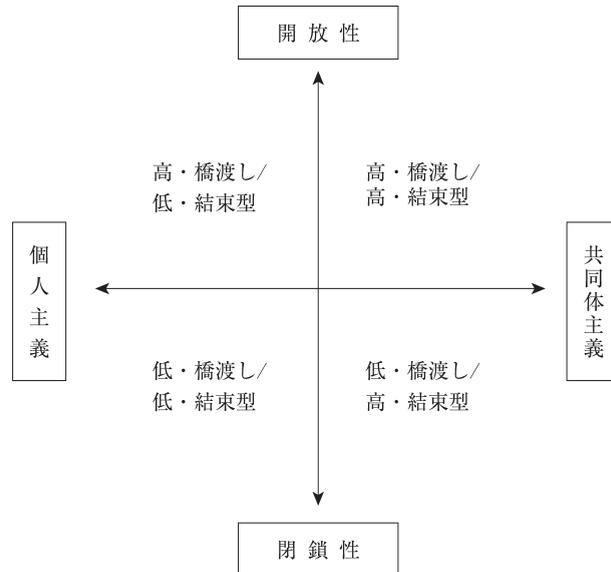
- Q36 「政治で支持する政党はありますか？ もしあれば、それはどちらですか？ そしてなぜですか？」「共和党」「民主党」「その他」「なし」

(5) ソーシャル・キャピタル

ロバート・パットナム¹²⁾は、ソーシャル・キャピタルとは、ある集団の中で形成された「社会的ネットワーク」、「互酬性の規範」、「相互扶助」、「信頼」など、成員間の相互利益を得るための諸特徴を表す概念であると述べ、ソーシャル・キャピタルを「橋渡し型」と「結束型」を区別し、それが極めて重要だと指摘する。

12) Robert Putnam, *Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community*. New York, Simon & Schuster, 2000. (柴内康文訳『孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房、2006、18～21頁)

図表 1



Janel Curry, "Social Capital and Social Vision: A Study of Six Farm Communities in Iowa," pp. 139-152 in Corwin Smidt ed. *Religion and Social Capital: Producing the Common Good*. Waco, TX: Baylor University Press, 2003. を参考に筆者作成。

「橋渡し型」は、外向きで、諸集団の壁を越えていく動きを特徴とする。たとえば、公民権運動やエキュメニズムに立つ諸教派・宗教間の協力関係といった、諸集団横断的に人々を結びつけるネットワークがこれに当たる。また、集団の外部資源との連携や情報の伝達に有益である。他方の「結束型」は、内向きで、排他的な帰属意識を強化し、均質な集団を形成する動きである。たとえば、ある民族の友愛団体や教会の読書会などがこれに当たり、特定の互酬性の安定と連帯の強化に適切である。社会学的には、橋渡し型は効果的な「潤滑剤」として、結束型は強力な「接着剤」として機能する。なお、ソーシャル・キャピタルは、一般に「社会関係資本」、「社会資本」と訳されるが、本稿では、ソーシャル・キャピタルを採用する。

エリック・M・アスレイナー¹³⁾によれば、前述のキリスト教原理主義者は、自分たちのコミュニティに閉じこもって分離主義を貫く傾向があり、主流派プロテスタントは、対照的に、他の宗教団体と連携を図ってきた歴史を持つ。つまり、原理主義者は結束型を最大の特徴とし、一方で主流派プロテスタントは橋渡し型を特徴とする。

ジャーネル・カーリー¹⁴⁾は、「橋渡し型」と「結束型」のそれぞれの概念を用いて定

13) Eric M. Uslaner, "Volunteering and social capital: how trust and religion shape civic participation in the United States," pp. 104-117 in Paul Dekker and Eric M. Uslaner eds., *Social Capital and Participation in Everyday Life*. London and New York: Routledge, 2001.

14) Janel Curry, "Social Capital and Social Vision: A Study of Six Farm Communities in Iowa," pp. 139-152 in Corwin Smidt ed. *Religion and Social Capital: Producing the Common Good*. Waco, TX: Baylor University Press, 2003.

量的研究を行った。本研究ではその成果を参考に調査項目を設定した。カーリーはアイオワ州の農業地帯に位置する6つの相対的に均質な宗教共同体を研究対象とした。カーリーは、橋渡し型は、多様な集団を横断的に連携させるネットワークの一形態と見て、会員として加入している1人当たりの団体数の平均を橋渡しの測定値としている。一方、結束型は、集団の共同体主義的な傾向の強弱によって測ることができ、カーリーは集団の維持発展への関心を共有しているかどうか、さらには、自らが属するコミュニティへの関心をその基準としている。つまり、他団体と多くの関係を結ぶ人の多い集団は「高・橋渡し型」で、開放性を特徴とする。それとは反対に、関係が少ない人の多い集団は「低・橋渡し型」で、閉鎖性を特徴とする。自集団にのみ関心の高い人の多い集団は「高・結束型」で共同体主義を特徴とし、自集団にも関心の低い人の多い集団は個人主義を特徴とし、「低・結束型」集団である。

これをマトリックスとして図式化すると、図表1のようになる。

そこで本研究では、ボランティア活動をその集団への関心の高さ、つまり「結束型」の指標とし、他の集団でのボランティア活動や他集団の会員の保持を「橋渡し型」の指標と捉え、次のように質問を設定した。

質問

- Q28 「あなたは自分の教会や関連のボランティア活動に定期的に参加していますか？」
- Q29 「参加している場合の頻度はつぎのどれにあたりますか？ 週に1回以上、週に1回、月に1回、年に数回、年に1回、年に1回未満」
- Q30 「あなたは教会には関係のないボランティア活動に定期的に参加していますか？」
- Q31 「参加している場合の頻度はつぎのどれにあたりますか？ 週に2回以上、週に1回、月に1回、年に数回、年に1回、年に1回未満」
- Q32 「あなたは所属の教会以外に、職業、専門、学術、教育、文化、スポーツ、余暇に関係するグループ、組織などの会員ですか？」
- Q33 「会員である場合、いくつの組織の会員ですか？ 1、2、3、4、5以上」

III. データの分析と考察

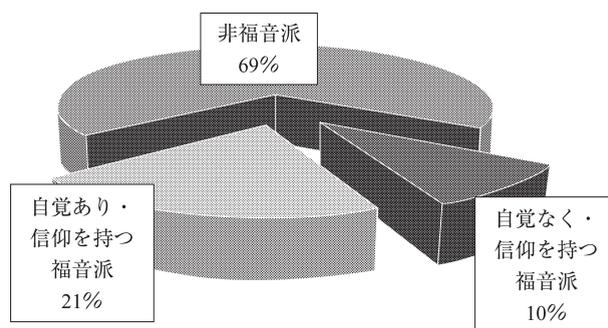
ここでは、各質問への回答の集計を示した上で考察を加えることにしたい。

(1) 福音派

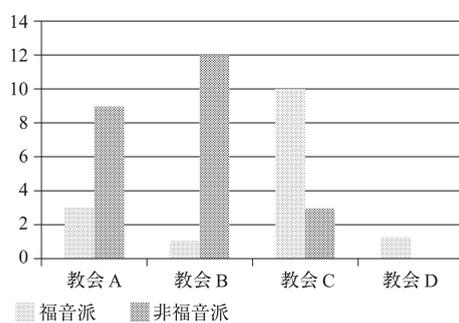
質問

- Q9 「あなたは自分を福音派と呼びますか？ その場合、そうでない場合、なぜですか？」
- Q10 「聖書は神の言葉であり、したがって、その中に誤りがないことを信じますか？」
- Q11 「回心体験、または『ボーン・アゲイン』体験をしたことがありますか？」

図表 2



図表 3



Q12 「キリストはあなた自身の個人的な救い主だということを信じますか？」

Q13 「福音のメッセージを、キリスト教を信じない人々に自ら進んで伝えたいですか？」

Q9～13のすべての質問に「はい」と答えたのは、全回答者の21%（8人）であった。Q10～13までは「はい」と答えたものの、Q9で自分自身を「福音派」と考えていない人は、10%（4人）であった。つまり、これは客観的な指標では福音派と呼べるのに、自分自身ではそれを自覚していない場合である。したがって、客観的指標でも、主観的にも福音派である人、つまりもっとも狭義の意味での福音派は21%（8人）であるが、客観的指標では福音派でも、自分が福音派であるという自覚のない人も含めると、31%（12人）が福音派ということになる。（図表2参照）

他方、Q11～13までの質問で1つでも「はい」と答えたのは、質問ごとに整理すると次のようになる。Q10聖書の無謬性を信じる人は41%（16人）である。Q11の「ボーン・アゲイン」体験を持つ人は44%（17人）である。Q12のキリストを魂の救い主と考える人は82%（32人）である。Q13の福音の伝道意欲のある人は82%（32人）であった。

教会別に見た場合、教会Aの福音派の信徒数は12人中3人、教会Bでは13人中1人、教会Cでは13人中10人、教会Dでは1人が福音派である。（図表3参

照) 先述のように、教会 C、D は神学的に保守的な信徒が多数所属する教会である。

(2) 原理主義

質問

Q14 「あなたは自分を原理主義者と呼びますか？ その場合、そうでない場合、それはなぜですか？」

Q15 「原理主義者とはどのような人ですか？」

Q26 「あなたは自分の子供を公立学校に通わせていますか？」

Q27 「もし『いいえ』なら、あなたの子供をどのように教育していますか？ またそれはなぜですか？」「宗教とはかかわりのない私立学校」「キリスト教の学校」「在宅教育」

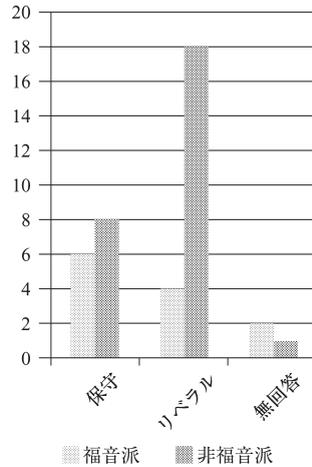
Q14の質問に対し、肯定的に答えたのは、21% (8人) であった。原理主義者とはどのようにイメージされているかについて、Q15の自由記述から記述を拾うと次のようになる。

1. 聖書を一字一句字義通り信じる
2. 聖書、規則、儀礼を厳格に理解し守る狂信的なキリスト教徒
3. 何事にも厳格
4. 聖書は神の言葉で無謬
5. 変化を恐れ、物事の白黒をはっきりさせる
6. 信仰を異にする人々から孤立して生活する神秘的な存在
7. 理論的にはキリスト教の根本的な信条を固く信じる人
8. キリストが自分の救い主と信じる人
9. 聖母マリアの無原罪の墮胎、処女降誕、イエスの復活、聖書の無謬性を信じる人

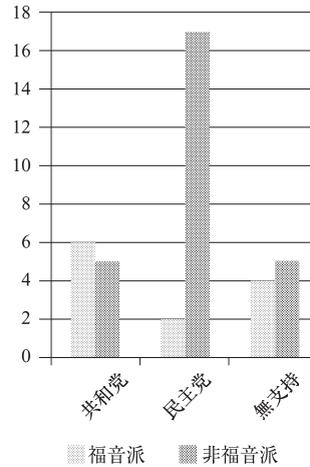
このように、ほぼ福音派の定義と同じような理解の仕方であった。6番目に記されているように世俗社会からの分離主義を示唆する記述はあるものの、ディスペンセーションナル・プレミニアリズム、すなわち差し迫るキリストの再臨という切迫感情を伴う終末論的な世界の理解をしている人は誰もいなかった。自らを原理主義者だと自覚している人々の原理主義者の定義の特徴ですら、一般的な福音派の定義であった。

ところで、原理主義者と自覚している8人のうちQ26とQ27で、子供たちを公立学校に通わせず、在宅教育（ホーム・スクーリング）を受けさせていると答えたのは0人である。自覚なく在宅教育と答えたのは1人で、しかもその被験者は保守的な福音派と原理主義者が多いとされるカルヴァリー・チャペルの牧師であった。在宅教育採用の理由として、「公教育はしっかりした道徳的基盤を欠き、躰のなっていない児童生徒を生みだしている」と記している。ところが、この人はQ14の質問には無回答で、「人により原理主義についての見解は異なる。残念ながら、その意味は（実際ケースによっては正しい場合もあるが）否定的な意味合いをもつ過激主義と見られている」とコメントしている。また、Q15の原理主義者の

図表 4



図表 5



定義の欄では無回答となっている。

(3) 政治的イデオロギーと政党支持

質問

Q35 「あなたは政治的に保守派ですか、リベラル派ですか？」

福音派の信徒の 50% (6 人) は政治的に「保守派」と答えたのに対して、33% (4 人) が「リベラル派」と答えている。一方、非福音派の 30% (8 人) は「保守派」と答え、67% (18 人) は「リベラル派」と答えた。福音派の 17% (2 人)、非福音派の 4% (1 人) は無回答であった。(図表 4 参照)

質問

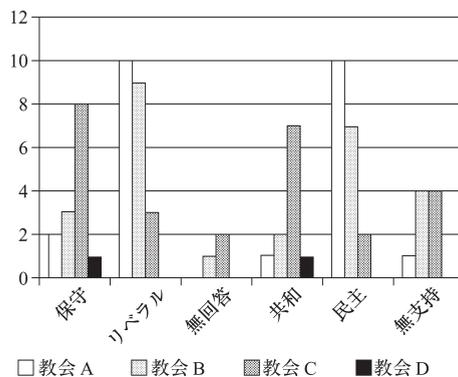
Q36 「政治で支持する政党はありますか？ もしあれば、それはどちらですか？そしてなぜですか？」 「共和党」「民主党」「その他」「なし」

次に政党支持についてであるが、福音派の 50% (6 人) は共和党を、17% (2 人) は民主党を支持政党に挙げた。一方、非福音派の 19% (5 人) は共和党を、63% (17 人) は民主党を支持政党に挙げた。そして、福音派の 33% (4 人)、非福音派の 19% (5 人) はどの政党も支持していないと答えている。(図表 5 参照)

福音派に限定すれば、5 割が共和党を支持し、およそ 2 割が民主党を支持し、およそ 3 割は支持政党なしと答えている。非福音派のおよそ 2 割は共和党を支持し、6 割を超える信徒は民主党を支持し、およそ 2 割が支持政党を持たない。この結果は、福音派の 5 割が保守的なイデオロギーを持ち、共和党を支持していることは、図表 6 に示したように、福音派が共和党の支持母体であることを示すものではある。しかし一方で、2 割が民主党、3 割が支持政党を持たないという事実は、福音派左派もしくは宗教左派¹⁵⁾ のイデオロギー的・政党支持傾向を裏付ける結果と見

15) 福音派左派および宗教左派に関しては、拙著『アメリカと宗教—保守化と政治化のゆくえ』(中公新書、2010) の 4 章、9 章で詳しく論じているので参照されたい。

図表 6



図表 7 白人福音派からの得票率 (%)

	民主党候補	共和党候補
1960	n/a	n/a
1964	n/a	n/a
1968	n/a	n/a
1972	n/a	n/a
1976	58	42
1980	33	63
1984	22	78
1988	18	81
1992	23	62
1996	32	61
2000	28	72
2004	22 (21)	78 (97)
2008	(26)	(73)

出典：Amy Sullivan, *Party Faithful: How and Why Democrats Are Closing the God Gap*. New York: Scribner, 2008, p. 223 および “How the Faithful Voted,” Pew Forum on Religion & Public Life, November 10, 2008 より作成。括弧内は後者の統計から。

することもできる。この点は今後詳細な検討が必要である。

以上の結果を、4つの教会ごとにまとめたものが図表6である。信仰と政治的イデオロギーとの関係は、教会別に見ていくとその関係が明確になる。数値は、同じ教会に所属する信徒で回答した信徒数に占める割合である。

教会Aは、政治的に保守派と自認する信徒の割合が17%（2人）であり、政治的にリベラルと認める信徒は83%（10人）である。政党支持では、共和党が8%（1人）であり、民主党が83%（10人）であり、無支持が8%（1人）である。政治的にはリベラル派であり、民主党支持者が圧倒的多数を占めている。

教会Bは、政治的保守派の信徒の割合は23%（3人）、リベラル派が69%（9

人)、無回答が8% (1人) である。一方、共和党を支持する信徒の割合は15% (2人)、民主党支持者は54% (7人)、支持政党がないと答えたのは31% (2人) である。

教会Cは、政治的保守派と答えたのは62% (8人) であり、政治的にリベラル派が占める割合は23% (3人) である。無回答は15% (2人) である。他方、共和党支持者の割合が54% (7人)、民主党支持者の割合が15% (2人) であり、支持政党なしと答えた信徒の割合は31% (4人) となっている。

教会Dは、回答者が1人で、政治的保守派であり、共和党支持者である。

この結果から、教会AとBにはリベラルな政治的信念を有する信徒が多く、民主党支持者の割合が5割を超えていることがわかる。ことに、教会Aのリベラル派の信徒の割合と民主党支持者が占める信徒の割合がともに12人のうち10人となっている。一方、教会Cは、政治的に保守的な信徒が13人のうち8人(62%) であり、共和党支持者も13人中7人(54%) である。教会Dは、1人(100%) が保守派であり共和党支持者である。教会CとDは、4つの教会の中ではもっとも政治的に保守的な教会である。すでに述べたように、教会Cは神学的にもっとも保守的であり、政治的にも保守的なイデオロギーを持ち、共和党を支持する信徒が多く所属している教会である。

また、図表7から分かるように、1980年の大統領選挙以来、原理主義者を中心として形成された宗教右派集団の台頭に伴い、白人の保守的な福音派は一貫して共和党を強く支持するようになった。したがって、上記で検証されたことは、神学的に保守的な福音派は政治的には保守的なイデオロギーを選好し、保守政党を支持するという一般的傾向に一致している。

(4) ソーシャル・キャピタル

質問

Q28 「あなたはあなたが所属する教会かもしくは関連のボランティア活動に定期的に参加していますか？」

Q29 「参加している場合の頻度はつぎのどれにあたりますか？ 週に二度以上、週に一度、月に一度、年に数回、年に一度、年に一度未満」

Q30 「あなたは教会には関係のないボランティア活動に定期的に参加していますか？」

Q31 「参加している場合の頻度はつぎのどれにあたりますか？ 週に二度以上、週に一度、月に一度、年に数回、年に一度、年に一度未満」

Q32 「あなたは所属の教会以外に、職業、専門、学術、教育、文化、スポーツ、余暇に関係するグループ、組織などの会員ですか？」

Q33 「会員である場合、いくつの組織の会員ですか？ 1、2、3、4、5以上」

ここでは、教会A、B、CのQ29、31、33の項目の比較を行う。教会Dのサンプルが1であるため、同教会は考慮に入れなかった。

図表8に示したように、ボランティアについて、自分が属する教会に関係する

図表 8 Q29

	教会 A	教会 B	教会 C
週数回	6	1	7
週 1 回	3	5	4
月 1 回	1	5	0
年数回	2	1	2
無回答	0	1	0
	12	13	13

図表 9 Q31

	教会 A	教会 B	教会 C
週数回	3	2	3
週 1 回	3	0	0
月 1 回	4	3	3
年数回	1	3	4
無回答	1	5	3
	12	13	13

図表 10 Q33

	教会 A	教会 B	教会 C
5 以上	1	0	3
4	3	1	0
3	3	1	3
2	1	5	3
1	2	4	3
無回答	2	2	1
	12	13	13

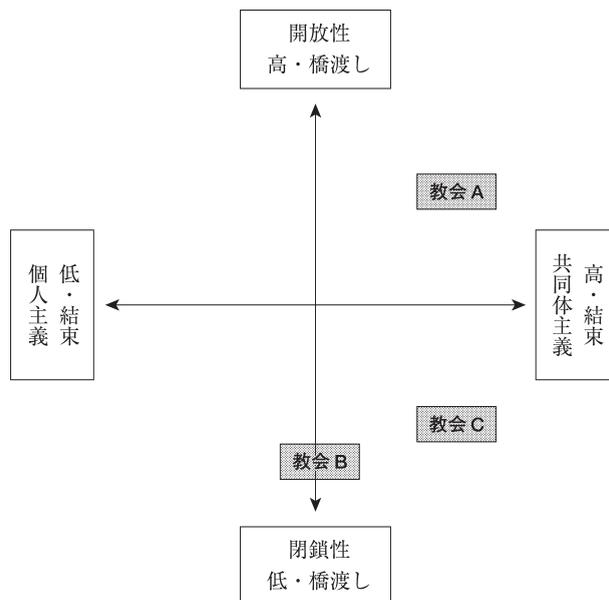
ものに週 1 回以上参加すると答えた人は、教会 A では 75 % (9 人)、教会 B では 46 % (6 人)、C 教会では 85 % (11 人) であった。このことは、教会 A と C がおよそ 8 割の信徒が自分の属する教会のボランティアに週に 1 回以上参加しており、高・結束型ソーシャル・キャピタルを有する教会であることを示している。一方、教会 B は 5 割に満たない信徒が自分の教会でのボランティアに参加しているが、これは低・結束型とするには値が大きいように考えられる。

図表 9 に示されているように、自分が属する教会とは別のボランティアに週 1 回以上参加していると答えた人は、教会 A では 46 % (6 人)、教会 B では 15 % (2 人)、教会 C では 23 % (3 人) である。こうしてみると、教会 A は高・橋渡し型であり、教会 B と C は低・橋渡し型と見ることができる。なお、平均年齢との関係では、教会 A が 73 歳、教会 B が 65 歳、教会 C が 46 歳であり、教会 B・C よりも教会 A の平均年齢が高く、年齢は低・橋渡し型とは無関係であることがわかる。

図表 10 のように、自分が所属している教会以外に会員となっている集団について、4 つ以上と答えたのは、教会 A では 33 % (4 人)、教会 B では 8 % (1 人)、教会 C では 23 % (3 人) である。2 つ以内と答えたのは、それぞれ 25 % (3 人)、69 % (9 人)、46 % (6 人) であった。このことから、教会 A は高・橋渡し型であり、教会 B は低・橋渡し型と見ることができる。

以上 3 つの指標から、教会 A は共同体主義に立つ高・結束型であり、かつ他の集団にも開かれた高・橋渡し型ソーシャル・キャピタルの教会ということができ

図表 11



る。教会 B は、個人主義的な信徒と共同体主義的な信徒が存在する集団で、結束型では中間に位置する。仮に中・結束型としておく。さらに、他集団でのボランティアにおいても、その他の会員数からしても比較的閉鎖的な、低・橋渡し型ソーシャル・キャピタルを特徴とする集団である。教会 C は、低・橋渡しに位置し、高・結束型ソーシャル・キャピタルを特徴とする集団といえる。仮に、3つの教会を図表 1 で示したマトリックスで位置付けるとすれば、図表 11 のようになる。

むすびにかえて

本稿では、モデスト市の 4 つ（実質的には 3 つ）の教会からのアンケート調査に基づいて、これら教会信徒の信仰の形態が社会・政治的關係にどのような影響を与えるかについて論じてきた。最後に、本稿での議論のまとめを以下に書き留めておきたい。

1. 福音派の信仰に関する概念規定は極めて複雑である。一つには、信徒が認識する自分自身の信仰の形態と、観察者が質問表から客観的に読み取れる信徒の信仰の形態との間にズレが生じる場合があるからである。本研究では、信徒自身により自覚された信仰も無自覚の信仰も、ともに福音派の定義に含めた。
2. 福音派と同様に原理主義の信仰に関する概念規定も極めて複雑である。原理主義者については自覚している被験者はいなかった。さらに重要なことは、原理主義については、被験者による定義が極めて曖昧であり、福音派とほぼ

- 同じ意味で理解されていたことである。誰一人として、デイスペンセーション・プレミニアリズムを原理主義の一条件として挙げる者はいなかった。
3. 原理主義者が多く属しているアセンブリーズ・オブ・ゴッド教会系の教会 D からのサンプルが 1 人であったことから、サンプルが絶対的に不足していた。今後の課題として、原理主義者を対象にアンケート調査を実施する必要がある。
 4. 政治的イデオロギーでは、福音派は保守的イデオロギーを、主流派はリベラルなイデオロギーを信奉する。一方、政党支持では、福音派は保守党である共和党を、主流派はリベラルな民主党を支持する傾向がある。特筆すべきは、福音派の中には、リベラルなイデオロギーを信奉し、リベラルな民主党を支持する者もいる。このことは、福音派左派や宗教左派の存在を裏付けるデータでもある。今後面接調査などによって、立ち入った検討を行う必要がある。
 5. ソーシャル・キャピタルについては、先述のように、主流派教会は福音派教会よりも高・橋渡し型であり、福音派教会は主流派教会よりも低・橋渡し型となる傾向がある。しかしながら、本研究では、非福音派信徒の多い敬虔派・再洗礼派の教会 A は高・橋渡し/高・結束型であり、主流派である教会 B は低・橋渡し/中・結束型であった。一方、保守的な福音派が多数を占める教会 C は、低・橋渡し/高・結束型であった。
 6. 教会 A は、高・橋渡し/高・結束型である。厳格な教義よりは正しい生活と実践を重んじ、絶対平和主義を唱える。海外でのボランティア活動も盛んである。こうした教会の教えや実践がソーシャル・キャピタルに影響を与え、世界に開かれた活動を展開している。敬虔派の影響下の場合には福音派教会であるが、再洗礼派の場合は福音派にも主流派にも分類される教会である。しかし、福音派の割合が 25% (3 人/12 人) ということから、教会 A は再洗礼派に属する主流派教会と判断される。この点は、面接を通じて検証する必要がある。
 7. 教会 B は、低・橋渡し/中・結束型である。主流派教会は一般に高・橋渡し型を特徴とするが、本研究では低・橋渡し型という結果であった。これについては、調査項目/質問内容を再吟味する必要がある。加えて、面接による詳細な検討も必要である。
 8. 教会 C は、低・橋渡し/高・結束型である。福音派教会であることから、低・橋渡し/高・結束型という結果は想定内であった。先述のように、福音派左派の存在の可能性が確認されているので、面接調査で詳細にわたってデータを収集する必要がある。
 9. 本稿では質問項目に不備な点も多く、またアンケート用紙の回収状況についても様々な課題が残った。特に、ソーシャル・キャピタルに関しては、今後も調査項目を検討してより精緻なものにしていきたい。

*謝辞 本稿は、平成20年度、21年度の麗澤大学特別研究助成金による研究成果の一端である。また、本研究のデータの整理やグラフ化に際しては、筆者が勤務する麗澤大学経済学部3年生で筆者のゼミ生でもある須合拓也君に大変お世話になった。また、本学の非常勤講師の山口綾乃氏には貴重な助言をいただいた。ここに感謝を申し上げたい。

**堀内一史 麗澤大学経済学部教授、同大学国際交流センター長、同比較文明文化研究センター研究員。専門は、宗教学、宗教社会学、アメリカ研究。著書に、『アメリカと宗教—保守化と政治化のゆくえ』（中公新書、2010年）、「第4章 ソーシャル・キャピタルとボランティア—宗教ボランティアと宗教的ソーシャル・キャピタルをめぐって」105～133頁、稲葉陽二編『ソーシャル・キャピタルの潜在力』（日本評論社、2008年）など。論文に、「アメリカの市民宗教とG・W・ブッシュ大統領—『模範としての使命』から『介入としての使命』へ—」『思想』（岩波書店、2005年7月号）など。訳書に、M・エドワーズ著『「市民社会」とは何か』（麗澤大学出版会、2008年）など。